

会議録（要点記録）

令和3・4年度 堺市南区政策会議 第5回安全安心創出・未来共創推進部会	
開催日時	令和4年9月26日（月） 午後6時44分～午後8時11分
開催場所	国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）大研修室2
出席委員	近藤委員（部会長）、岸本委員（職務代理者）、 大槌委員、金子委員、福井委員、 二橋委員、野崎委員、正木委員
事務局 管理職員	堺市 佐小南区長 南区役所 植松副区長・谷口副区長 上山参事・西村参事・吉田総務課長 喜多区政企画室長・仲田自治推進課長
議題	1. 開会 2. 議題 「南区独自の防災力向上モデル」について 3. その他 4. 閉会
配付資料	・次第 ・配席図 ・資料1 南区独自の防災力向上モデル ・資料2 「南区防災力向上モデル」に関する「ひらめき」や「アイデア」の取りまとめ

1. 開会

区政企画室長

ただいまから堺市南区政策会議、第5回安全安心創出・未来共創推進部会を始めさせていただきます。

私、本日の司会を務めさせていただきます、南区役所区政企画室、喜多でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

皆様におかれましては、何かとご多忙中のところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

本日、鈴木委員がご欠席とのことをお伺いしております。

なお、本会議は公開とさせていただきます。会議録を作成するに当たって、正確を期するために議事内容を録音させていただきます。また、記録のため写真撮影をさせていただきます。何とぞご了承いただきますように、お願いいたします。

なお、9月2日に予定しておりました、第4回安全安心創出・未来共創推進部会は、災害対策のため当日中止とさせていただきます。構成員の皆様におかれましては、大変ご迷惑をおかけしました。申し訳ございませんでした。また、書面開催にご協力を賜りありがとうございました。

本日どうぞよろしくお願いいたします。

では、配付資料の確認をさせていただきます。

《資料の確認》

議論に入る前に、7月20日、水曜日の御池台校区地域会館及び堺市立上神谷支援学校の視察、そして8月27日に実施しました、災害時における要配慮者に対する避難所運営実地訓練について、また書面開催により実施いたしました第4回安全安心創出・未来共創推進部会について、自治推進課仲田課長よりご報告申し上げます。

自治推進課長

7月20日水曜日、御池台校区地域会館及び堺市立上神谷支援学校の視察にご参加いただきまして、ありがとうございました。

まず、御池台校区地域会館の視察では、御池台校区の会長、副会長、民生委員長を中心に、御池台校区の支援避難所、地域の福祉避難所的機能と取組内容についてご説明いただきました。

具体的には、避難者の受付方法、避難所のレイアウト、防災訓練実施の様子を中心にご案内いただきました。地域会館の会場内には段ボールベッドや非常食も用意いただき、訓練時の状況をイメージすることができました。

次に、堺市立上神谷支援学校の視察では、福祉避難所の開設運営について説明させていただき、その後、校長先生に校内施設をご案内いただきました。避難時の居住スペースとして音楽室、図書館をご案内いただいたほか、気持ちを落ち着かせるためのカームダウン・ルームなども案内いただきました。

学校施設の見学終了後は南区防災力向上モデル案に関する意見交換を行っていただきました。意見交換では様々なご意見をいただきましたが、会場利用の都合上、時間に限りがございましたので、近藤部会長に南区独自の防災力向上モデルの内容について一任させていただきました。

次に、要配慮者に対する避難所運営訓練についてご報告します。

8月27日、土曜日、堺市立上神谷支援学校で要配慮者に配する避難所運営訓練を実施しました。訓練内容としましては、安全安心創出・未来共創推進部会長

の近藤先生より、「みんなの防災、新しい共助の輪を広げよう」と題しまして、ご講演いただきました。

続いて、南区役所自治推進課より南区避難生活ガイドブックについて、また、堺市健康福祉局地域共生推進課より、福祉避難所の開設運営についての説明をさせていただきます。

その後、3班に分かれ、校舎内に移動し、福祉避難所の見学、在宅避難、車中泊等の防災関連用品の紹介、マンホールトイレの紹介をさせていただきました。

当日、ご講演いただきました近藤先生、また、ご出席いただきました部会構成員の皆様、誠にありがとうございました。

先日の、書面開催により実施いたしました第4回安全安心創出・未来共創推進部会では南区独自の防災力向上モデルを確定いただきました。

また、本モデルにおける5つの柱に関する具体的な取組へのひらめきやアイデアについてご意見をいただきました。5つの柱に関する具体的な取組へのひらめきやアイデアにつきましては、この後、ご議論いただく予定です。

区政企画室長

それでは、これ以降の進行につきましては、近藤部会長にお願いしたく存じませ

2. 議題

近藤部会長

前回、直接お会いできませんでしたが、第5回目の会合ということで、今日がひとまずの結びとなります。8時手前までの残り1時間ぐらいですけれども、集中して議論していきたいと思います。11月の半ばには、こちらの部会でまとめたことを、全体会に持っていくという予定になっています。

先ほど、最近の動きをまとめてご紹介いただきましたけれども、私からも皆さんに振り返ってもらうために、今日の作業の内容も含めて説明したいと思いま

す。御池台の地域会館へ皆さんと行き、いろいろ貴重なアイデアを伺ってきました。支援避難所の計画を既につくっていらっしゃるというのが、全国的に見てもすばらしい、進んだ取組だと思うんです。地区の防災計画の別バージョンで、こちらでは支援避難所と呼んでいましたけれども、福祉的避難スペースをご準備されて

いました。例えば、我々がお話を聞いた場所も乳児、妊産婦さんが過ごす場所にするということを決めていらっしゃいました。しかも、何人入れるのかも計算してある。準備されているということはすばらしくて、災害時にも役立つと思うし、このアイデアを南区全体に広めていくといいと思うんです。段ボールベッドも組み立てたことがある人は、大体こんな段取りだなんて浮かぶんですけども、その後、パーティションで区切るのかどうかというのは、地域によって随分やり方が違いますので、試してみるといいし、段ボールの上にクッションとかマットとかを、置くかどうかでも、随分違いますよね。

支援学校にも行きました。本来は、体育館に避難者の方に入らせていただくという計画ではありますけれども、大きな災害になれば、使えるところは、みんなであまく使いたいとなるはずですよ。実際に建物に入りますと、廊下が随分広いと感じた人も多いと思います。音楽室や図書室以外にも広く過ごしやすそうなスペースがあることを我々も発見して、冷暖房は入るのかと聞いたりもしましたよね。音楽室は床が板ではないですから、過ごしやすいかもかもしれません。そして、図書室も、地震の際には本棚が落下するかもしれませんが、ひょっとすると子どもたちが少し憩いの場所として使うとか、工夫ができる。本も棚から降ろしてしまえば、安全に過ごせるスペースになるのかもしれない。そんなことを地域の皆さん

や施設の方、いろんな方のアイデアを寄せると準備が進むと思います。

防災倉庫もを見せていただいて、恐らくこのマンホールトイレを訓練のときに組み立てていらっしやっただのかなと思います。こうした機材、資材は使ってみないと、いざというとき使い方がわからない。組立が結構大変なので、みんなが使ってみるといいと思います。

支援学校は、入り口に屋根がついていました。こういう建物は結構珍しくて、荷さばきがすごくしやすいんですね。豪雨災害時でも避難しやすく、受付をつくれるかもしれないので、皆さんでどんなふうに使えばいいか議論されていくといいなと思いました。

冒頭で、前回9月2日、お会いできずにおわび申し上げますと挨拶いただきましたけども、決断というか、土砂災害警戒情報が出たわけなので、仕方ないというふうな、我々、思うべきだと思うんです。逆に、英断をしていただいたと思います。9月2日に堺市でどういうふうな情報を出されて結局どうなったかという、人的被害はなし、浸水の被害は59件ほどありました。一大事だったわけですけども、人的被害がなかったということを実はもっと喜び合えてもいいのかなと思ってるんです。「警報が出た。大変だ。」となった後に、警報が解除されたという情報までは読み取る人も多いと思うんですけども、結局、あれなんだったのかなで過ごしちゃうと、何の学びにもならないかもしれません。

先般の台風14号ですけども、こちらも大きな被害はなかったようです。各区で開設された避難所の数と、そこに行った人の数が公表されています。南区は一人が避難所に行かれたということですが、それでも避難所20か所ほどを開けていただいたわけです。開けたということは一つの訓練にもなったと思うし、それを見に行っただけで、自主的な訓練になったかもしれない。もしくは、避難所の立ち上げを手伝ったほうがもっとハッピーだったかもしれません。一つ一つの台風をやり過ごしてしまうと、我々の力にならないので、余裕があるときには、どうなっているのかなと気にとめてもらえるように、情報の共有が求められていくのではないかと思います。

皆さんとはこの後、南区の防災力向上モデルということで、何をどうしていけばいいのかの具体をまとめるということをやりたいと思っています。

お手元の資料2「南区防災力向上モデル」に関する「ひらめき」や「アイデア」のとりまとめが、皆さんからいただいた「ひらめき」、「アイデア」を事務局で取りまとめた一覧表になります。

1、2、3、4、5の5つの柱に沿って、短期的、長期的に取り組めるアクションのアイデアを皆さんにお考えいただいたわけです。もう一度、5つの柱を確認しましょう。ここまでできたら、我々の作業はほぼゴールだと思うかもしれませんが、もう一声、頑張ってみようと思います。

第1の柱が、オール南区で防災意識を高めていくんだ、ということです。

第2は、それをさらに強めるセーフティーネットの網の目をきめ細かくするという意味で、誰一人取りこぼさない防災福祉を進めるんだと、強い決意が書かれているわけです。インクルーシブ防災という言い方もします。

第3の柱は、ほかの自治体ではまず見受けられないスローガンです。既存の枠組みを超えて、新しい共助の形を生み出す。どなたかがこの会合で、もう既存の枠組みを超えるしかないんだよねという言葉をご発表された方もいらっしやっして、すごく心に残りました。自治会がなかなかうまくいかないとか、地域の力が細まっているとか、言い合っているだけでは前に進みませんので、新しい助け合いの輪をつくっていきましょう、これが3番目です。

4番目は未来に向かって、人材を育てる。

そして、5番目は、やはり情報を共有しないと何が課題なのか、どこにアイデアがあるのか分からないので、それを共有するプラットフォームとか仕組みをつ

くっていこうということになっています。

資料2では重複したものも含めて全部落とし込んでいただいたわけです。ちょっと重複感もあるし、その場所に入れていいのか、場所を変えてもよさそうだというアイデアもあります。今日、さらに加えて言っておきたいということがあるかもしれないので、そのお声も頂戴したいと思います。

これから、この表をまとめる作業を一緒にしようと思っています。皆さんに、最初に大卒の意見を伺いたくて、短期的な取組と長期的な取組を2段階に分けてご記入いただきましたが、分けるのが難しかったのではないのでしょうか。皆さんのシートを見た瞬間にそう思いました。つまり、短期的にやったことを、後は持続していかなあかんやろうということです。ですので、短期長期の明確な区切りは取っ払ってしまって、5つの柱でやるべき項目をちゃんと書いていこうと思います。もちろん、ハードウェアとかお金がかかりそうなものは時間もかかるので、そういうものは「(長期)」など備考を加えてもいいと思います。気持ちとしては、災害がいつ来るか分からないので、なるべく早く進むといいなと思うひらめきやアイデアをまとめていけたらなと思います。ここまでよろしいですか。

無理な作業を強いてしまった気もするし、事務局の皆さんもよろしいですかね。フレームが変わるといのは、事務局の方にとってみると大変な作業なんです。

5つの柱に対して、ひらめきやアイデアをカタログにする。そういうシンプルな表にしてしまったらどうでしょうか。皆さんからいただいたアイデアをどれかの柱にフィットするように埋め込んでみると、全体のアイデアが俯瞰できるし、有機的につながっていくのではないかなと思います。

皆さんのお声もいただきながら、今日、この場でほとんど落とし込んでしまおうと考えています。

まず、今、書き出されているもの以外に、ちょっと言い忘れていたとか、加えたいなという思いのある方はいらっしゃいますか。大体、網羅されていますか。どの場所にあるといいかはさておいて、大事なポイントは網羅されているでしょうか。

全部読み上げると、すごく時間がかかるので、ざっと目を通していただきながら進めていきましょうか。途中でひらめいたら教えてください。

第1の柱から見てください。オール南区で防災意識を高め、備えを確かなものにしていこうという柱になっています。個人個人とか各家庭でまず行えることを想定した柱になっていて、それより大きな広がり、2番や3番や4番などの柱に加えていくほうが、整理ができるかもしれません。

いただいたアイデアを見てみましょう。「地域、学校でコラボして訓練する」というアイデアはとても大事なことだと思います。それから、「個々人で家の点検」これも大事です。「普及啓発の部分、広報の部分」について、「ポスターをつくる」とか、「防災キャラクターをつくる」、「イベントを立ち上げてはどうか」とかっていうアイデアもあります。どれもいいなと思いますが、第1の柱は意識を高める柱なので、個々人のアクションとして、まず取り組んでもらえるようなアイデア、それから、普及啓発、広報、オール南区でやるんだとなるような広報をこの柱に入れると、とてもフィットするのではないかなと思います。

ほかにもたくさんいいアイデアがあります。例えば、南区の防災拠点になる展示スペースは、柱の5に持っていくといいのではないのでしょうか。情報の共有の拠点にもなりますので、このアイデアは残しておきたいと思います。

それから、防災士さんの養成は人材の柱、4番目に持っていくとフィットするかなと思いました。若い皆さんの防災士養成が第4の柱に並んでいるので、そちらに入ると。似た者同士が並ぶと思います。

ということで、個々人の意識と普及啓発、広報を、この1番目の柱に入れていきたいと思いますが、イベントについて教えてもらってもいいですか。南区の防

災イベントを立ち上げるってすごくいいなと思うんですが、今は例年、必ずやっているものというのがありますか。あまりないですか。

自治推進課長

毎年、全く同じことをやっているという防災の事業は現在ございません。防災訓練については、各校区で毎年実施されておりますが、区主催の事業で、全く同様に恒例的にやっているというものはございません。毎年、内容を変えており、今年は上神谷支援学校で要配慮者の訓練を行いました。2年前には、新型コロナウイルス感染症に配慮した避難所運営について訓練を実施しました。毎年、その時々々の状況を見ながら、イベントの内容を企画して実施しているというのが現状です。

近藤部会長

ある意味では、継続ということですがけれども、ぜひ、毎年、南区独自の防災のイベントを企画して実施するというのを掲げていくといいかなと思います。

自治推進課長

1点補足でお伝えできましたらと思うんですがけれども、この12月10日に場所がこちらのビッグ・アイで、防災の事業のイベントを予定しております。

こちらのほうは、多様な方にご参加いただいて、防災意識を高めていただく機会になればとの思いで、今年12月に事業を予定しております。ご参考までに補足させていただきます。

近藤部会長

恐らく、それを毎年1回必ずやりますとか、毎年、例えば2回、夏と冬にやりますとか、そのようにリズムが決まってくると、住民の方も「防災やらなきゃ」というような気持ちになるかもしれないので、一つ一つのアクション、最終的にキャンペーンとしてつないでいただくといいのかなと思います。

ポスターの案も出していただきましたが、ポスターを貼るだけにしないほうがいいですね。住民の方に、ポスターのデザインを考えてもらうとか、子どもたちを対象にポスターコンテストをするという案を出してくださっていましたよね。参加していただいて、普及啓発につなげる作戦というのも大事かと思います。

防災キャラクターもユニークですね。南区ってキャラクター、ゆるキャラって何かいるんですか。

金子委員

みみちゃん

近藤部会長

みみちゃんが防災頭巾かぶったりとか、非常用持ち出し袋持ったりとかしたことあるんですか。

自治推進課長

みみちゃんがヘルメットをかぶったバージョンというのがあります。南区の避難生活ガイドブックということで、ホームページでも掲載しており、先日の訓練でも説明させていただいたのですが、こういった形で防災関係の資料として使っております。

近藤部会長

みみちゃんは何をモチーフにされている人なんですか。お花ですか。

区政企画室長

お花の妖精になっております。

近藤部会長

分かりました。じゃあ、みみちゃんのお株を奪っちゃうといけないので、ちょっと、新しい防災キャラクターの代わりに、「みみちゃんとコラボ」をアイデアとして入れましょうか。

金子委員

安上がりですね。

近藤部会長

はい。安上がりという声も上がりました。みみちゃんに活躍してもらいましょう。

ほかに何かアイデアを加えたいことありますか。どのアイデアもいいなと思っています。

ちなみに、南区防災の日って決めちゃうっていうのも一つです。最近は、ラジオ関西さんと番組をずっとつくっているんですけども、3月11日東日本大震災の日、6月18日大阪北部地震の日、9月1日関東大震災の日と1月17日阪神淡路大震災の4回、キャンペーンされているんです。ちょうどいい区切りで4回あるので、どの日付も大事にしたいと聞いていますが、何か南区さんにとって特別な日とかあります。

大橋委員

3年前の台風ぐらいですか。大きかったのは

近藤部会長

台風21号

大橋委員

大きいのは、21号ぐらいでしょうか。阪神大震災も、ここは山手なので、それほど大きな被害はありませんでした。

近藤部会長

南区防災の日をここで立ち上げるのは難しいかもしれないので、そんなやり方もあるのかと思っていただければと思います。

先週は、滋賀県の草津市に参りまして、室戸台風の慰霊祭っていうのを一緒にやってきました。木造の校舎が崩れて、17人の子どもたちが命を落とした小学校があるんですけども、そこで毎年慰霊祭が行われていましてね。88回目の慰霊祭かな。ちなみに、来年は、関東大震災100年の年ですので、皆さん、9月はいろんな取組をしていただけるといいかなと思います。

防災ポスターコンテストまで書いちゃうと踏み込み過ぎかもしれませんが、防災ポスター、できれば、たくさん集めて見比べてみていただけるといいかもしれません。内閣府が募集している防災ポスターコンクールもありますから。そのままそちらに提出されるとビッグな賞がいただけるかもしれません。毎年、1月に表彰されていますけども、東日本大震災が起きるまでは、非常に抽象的なポスターが多かったんです。でも、東日本大震災が起きてからは、津波とか地震とかの怖さが具体的に描かれるように随分変わったそうです。子どもたちでも、物すごく身近に感じるようになってきたという意味において、防災が大事だという熱い

思いを持っているうちにポスターを作っていただくだけでも防災教育の効果が出るかもしれません。

キャラクターについては、「みみちゃんとコラボ」とし、ポスターは製作する。ぜひ、イベントはちょっとプレッシャーですけども、打ち上げ花火で終わらずに、継続して企画・実施していただくといいかなと思います。もちろん、大阪府全体で、9月には880万人訓練などもありますから、タイミングを合わせて、オール南区として一斉にやりましょうっていう案内をするだけでも変わりますね。じゃあ、第1の柱のひらめきやアイデアをある程度埋めてみましたので、第2の柱に行ってみましょうか。

こちらは、さらに具体的に、誰一人取りこぼさないという思いを、ひらめき、アイデアとして書いておかないと、お題目で終わっちゃうといけませんよね。みんな大事だねって言い合っているだけではいけないので、しっかりアイデアを埋め込んでいきたいと思います。いただいたアイデアを見ますと、どれも大事なことを書いていただいていますね。「防災福祉の語り部やリーダーの養成」というアイデアについてはなるほどと思いました。もう少し補足を教えてもらうことはできますか。

二橋委員

僕が書きました。やっぱり、語り部っていうことは、それにすごく思いがあったりとか経験したりとか、そういう方だと思うので。例えば、福島の事象から避難している方もおられますし、いろんな経験をされている方もおられると思うので、そういう方に、私は今、小学校の教員なんで、小さい子どもたちに語ってもらったりとか、話してもらおう。あるいは、各自治会で勉強会などをするとき、そういう方に来ていただいて話をさせていただくとか。経験したことがある方の言葉は強いと思うんです。そんなこと考えて、養成したらどうでしょうか。それはやっぱり年齢的なこともあるから。広島でも、2世代、3世代と語り継がれていることがあると思うんですけど、そういう方をつくっていくのはどうかなというアイデアです。

近藤部会長

ちょうど、御池台に行ったときに、民生委員さんがお話をされていましたが、民生委員さんが全部を見回るのは大変なので、民生委員さんのサポーターさんが数人いるんですっていうのを教えてくださいました。防災と福祉をつなぐ人材がいるというのは強みだなというふう感じた次第です。高齢者だけでなく、障害のある方とかご病気の方とか、いろんな方がいるわけなので、この防災と福祉をつなぐ人材の養成、育成というのは、これはとてもすばらしい発想だし、明記しておいたほうがいいと思いました。どういう仕組みにするかは、もちろん、工夫が要りますけれども、民生委員の、おやめになった方になってもらう手もあるかもしれないし、これから、民生委員になるかしらっていう人を育成していく手もあるし、それから、先ほどの、被災とか災害の経験がある方、語り部さんですか、伝え手になっていただくというの、もちろんありですよ。何かそういう人を発掘する、みんなに情報を共有していただく仕組みがあるといいなと思いました。ありがとうございます。

ほかに、福祉的避難、場所の話ですね。福祉的避難スペースの拡充、これは今からでも取り組んでほしいし、今後、取り組み続けてほしい案件なので、書いておきましょう。

それから、日常からサポートの必要な方と交流しておく。これもとても重要なことなので、書き加えておきたいと思います。

兵庫県の尼崎市で民生委員さんを対象にアンケートしたところ、要配慮者とふだんから交流する機会があるかというアンケートに対して「ない」って答えた人

がちょうど半分でした。コロナという問題もあるんですけども、余裕がない。それから、障害のある方とかご病気の方が、どこにどれだけいるのか、案外分からないっておっしゃっていました。分からないと引き継がれないんですよ。こうした日常的な交流から、うまく問題が軽減化していくといいのではないかなと思います。福祉の部会のほうでも、そういう話が出ているかもしれませんが、とにかく、誰一人取りこぼさないという、この強い決意を具現化するような仕組みづくり、今後、進めていただけるといいなと思います。もう定期的に交流できるっていうぐらいになるような、分かりやすい仕組みがあったほうがいいかもしれません。

この第2の柱の部分。防災福祉の言葉自体を啓発しましょうって、これもまさにそうですね。そういう意味でも、枠組みをいろいろな形でつくっていいなと思います。みみちゃんにも、ぜひ、そういう活躍をしていただけるといいかもしれない。

全部を網羅できていないかもしれませんが、次の柱に行ってみましょうか。

既存の枠組みを超えた新しい共助は、南区の防災モデルの肝になる部分でもあります。ほかの自治体では、これは分かっているんだけど、あんまり書かないんですね。例えば、自治会があるんだったら、自治会という枠組みでやってくださいっていうことになっちゃうので。それを踏み越えてとか、あと、小学校区ごとに自主防災組織をつくるので、小学校区ごとでと言って閉じてしまう場合があるんですけども、この部分を、南区では、そうですね、突破するという言い方は強過ぎるかもしれませんが、新しい形を模索するためにちょっと、ここも埋めていきたいと思います。

どんなふうを書くといいですかね。もうここすごく丁寧にアイデアを出していただいているので。このお手元の表のとおりなんですけども。この「定期的に情報交換会」というアイデアは第5の柱のほうに持っていくと合うかもしれません。「地域、学校、企業とコラボ」、まずはそういう書き方に見えますかね。たしか、冒頭のほうでこの部会で議論してきたのは、小学校区域を越えられるかというのもありましたから、そこは忘れずに入れておきましょうか。「地域と、企業、事業所などと共助の仕組みを持ちましょう」というアイデアを何人かの方が提案していただいたようです、大事なことですね。もう少し、踏み込んで書けるかな。協定を独自に結ぶとか、覚書を交わすとか、そこまで書きちゃうとちょっと踏み込み過ぎですかね。

自治推進課長

協定については今現状では、危機管理室が市全体で協定を結んでおりまして、区で結ぶというケースは少ないです。どこまで踏み込むかについて、「めざす方向性」という意味合いであれば、ここで書いていただいてもいいのかなと思います。ただ、実際にそれを確実に、もう来年から実施していくという現実的な形で考えるのであれば、少し踏み込み過ぎという傾向もあるかと感じる次第です。

二橋委員

質問です。企業や大学などと協定を結んでいるというのは、福祉避難所とか、何かあったときに、こんなことで協力しますよという、そういうものですか。

自治推進課長

現状、防災の関係で協定を結んでいる内容としましては、企業の関係でいうと、被災に遭ったときに、被災地に物資の提供を行うという部分が多いです。以前、近藤部会長とお話する中では、ゴルフ場の広いスペースを使用させていただくということで、実際にそういう協定を結んでいる事例もございます。多岐にわたる分野で協定を結んでいると言えると思うんですけども、物資あるいは場所

の提供といったものが多いというふうに思っています。

二橋委員

ちょっと思いつきなんですけど、例えば、津波避難ビルってありますよね。マークがあって、ここへ行ったら上れますよとか。この前、私、自分の家の近くでAEDはどこにあるんやろうと思って探してみると、例えば、一番近くの幼稚園か、幼稚園が開いていないときはメモリアルホールかなどと考えていました。例えば、マーキングができるとか、あるいは、グーグルマップとかの上にポイントがあるとか。そうしたら、企業も、CSRじゃないけども、イメージアップにもなるし、そういうのが目についたら、自然と防災に対する意識も向くんじゃないかなみたいなこと思っていて、もっともっとそういう、イメージでキャッチしていくのはどうかなと思ったりしています。

自治推進課長

その点なんですけれども、堺区とか、海に近い場所、そういった場所では、津波が来た場合に、高層の建物のほうに避難するといった形で協定といいますか、そこに避難するというので、ビルの了解も得ているという話も聞いております。ただちょっと、詳細な部分については、私の勉強不足で正確には分かっていない部分があるんですけども、そういった取組をしているという話は聞いたことございます。おっしゃっていただいた部分、どこまでできるかというところはあると思うんですけども、より多くの人に、ここは避難所ですよということが分かる、そういった取組はできるのかなとは思います。

二橋委員

ここは何か災害があったときはこういうものを提供しますよというような企業の取組を周知するものがあったら、企業のイメージアップも図れる。そういう両方、ウィン・ウィンになれるような関係であつたらいいなと思います。もらうだけではなしにね。

近藤部会長

すごくいいアイデアですね。認証制度のようなものですよね。ほかの町でもそういう取組に協力してくれているところを認証、認定して、それを店のマークの横に貼らせてあげるとか。そういう取組もありますので、このみみちゃんマークを貼ってもいいよとか、防災の何らかのサポートをしてくれるような団体には認定をするなんていうのもありかもしれません。そのときに、ちゃんと下支えするものとして、覚書を交わすとか協定を結ぶというのも最近、あちこちで行われていますので、ぜひ。ゴルフ場は二つあるんですけどね。ゴルフ場とか。大学が三つ、四つ。三つでしたっけ。

大橋委員

三つです。

近藤部会長

三つでしたっけ。何か看護の大学がある。協定はまだ。災害時の協定はあるんですけどね。

自治推進課長補佐

指定避難所っていうことで、災害時には使用させていただくということになっております。今回のちょうど台風のときも、指定避難所として開設させていただきました。

近藤部会長

大学はキャンパスもあるし、若い人材もあるので、安全安心なまちづくりの包括連携協定っていうやり方もありまして、うちの大学も幾つかの自治体と、実は協定を結んでいますし、堺市にキャンパスもありますから、堺市さんと協定があります。南区独自で協定をかぶせるということで、いける可能性もあります。協定、もしくは、覚書でも何でもいいんですけども。単に避難所として場所貸してくださいだけだと、あんまり交流できないのでね。一緒に、訓練してみましようとか、備蓄倉庫を貸してくださいとか。防災学習、一緒にやりましようとか。

大橋委員

娘が大学生のとき、学校での避難訓練で、もし、災害が起きたときには、学校に避難してくる方がたくさんいるという想定の下で、避難してきた人をどう対処するかということを、学校の中で話されているっていうことがあったんです。そういう授業みたいなものがあったということで、この三つの大学にも、災害が起きたときには、どう行動するのかということをして、一緒に連携を取りながらやっていくということをお願いすれば、協定を結ぶとかじゃなくて、災害授業として、ここで被災したときには、自分たちはどのように動くのかっていうことを、学生さんたちに学習してもらえそうな、授業でもいいですし、そういう研修のようなものが各大学にあれば三つの大学とも泉ヶ丘地域にあるので、連携を取りながらやっていけるのかなと思っています。

それと、もう一つは、私が提案した連携なんですけど、事業所とかお店とかの連携についてです。ショッピングモールで実際に開店しているとき地震などに被災した場合、その場で個々の、高島屋やったら高島屋、パンジョやったらパンジョが、それぞれの避難訓練はしてるかもしれないんですけども、お客さんを交えたシェイクアウト訓練のようなものを、例えば、年に1回、この日はシェイクアウト訓練しますよということを大きくキャンペーンとして、一つのフェスタの中に取り入れるという形で行えば、大きなショッピングモールが三つあるんですから、それやるだけでも年に3回できるかなと。泉ヶ丘地域、光明池地域、梅・美木多地域っていうのを巻き込みながらやれば、どうなのかなとは思っています。

近藤部会長

ショッピングモールも入れましたので、やっぱり関係者が多いわけですよ。インパクトもあるということですから、そういうアイデアが今後も具体化されるためにもちゃんと書いておきたいと思っています。

正木委員はいかがでしょうか。3大学あり、連携できそうではないかという話が出ましたけども、学習の機会になるのではないかというアイデアとしていただきましたがどうでしょうね。

正木委員

私は、大学に入ってから避難訓練というものが、一回もしたことがないです。授業の中で携帯のアラームが鳴ることがあったので、そのときは、中庭に逃げるっていう簡単なことは教えてもらっているんですけど、大規模な訓練というものをしたことがないんです。

高島屋でアルバイトをしていたことがあるんですけど、そのアルバイト先では、飲食店だったので、店の中で、ガスの栓、ここのコンセントは抜いて、ブレイカーが落ちたらここにあるからという簡単なことを教えていただいていたので、ショッピングモールの訓練をもっと大きくして、大学でももっと授業としてやれば、避難訓練は行事で、大学生でも興味があると思います。授業としてあったら絶対参加したいなど、みんなも思うと思うので、やりたいなと思います。

近藤部会長

ショッピングモール全体を使った大規模訓練が難しい場合は、学生さんのパワーでシミュレーションをしてみるとか、何か課題を調べる研究とか調査もできる可能性がありますので、このコラボは本当にすぐにでも実現してほしいですね、指導教官の先生にもお伝えください。

そのほか、自治会同士の連携策というのを入れました。「近助と遠助」というのは、この部会でも一度使った言葉かもしれませんが。近隣の自治会同士、お隣同士の自治会が仲よければ、一緒に計画したり準備したり訓練するという手もあるし、災害が起きると、どっちも被害を受けて、それどころじゃないってなる場合もあるので、離れたところの自治会と仲よくなるっていうやり方もあります。

南区の場合、土砂災害が心配だなと思っているエリアから離れた場所の町内会さんと組んでおくと、助けに来てくれるかもしれないし、人が来てくれるかもしれないし。最近のはやはり、自治会を飛び越えてしまう、町内会同士の連携協定っていうのがあちこちありますので、海側と山側とか、県を飛び越えているところもあります。高知県などでは、海側の住民と山側の住民が協定を結んでおいて、津波が来たら山のほうに逃げて、土砂災害があったら海のほうで助けてもらうっていう仕組みをつくって、ふだんから交流しているんですね。防災訓練も見せ合いっこすると励みになる。地域、まちづくりにも使える手ですので、書いておきました。

自治会という枠組みが疲弊しているところもあるという情報も、今回の部会でいただきました。高齢化していたり、自治会に入らない方もいたりするので、そうした意味でも、既存の自治会のやり方だけに頼るのではなくというニュアンスを込めて、いろんなアイデアで組み合わせ、連携してもらえるといいかなと思い明記しました。

4番目の柱は、人材です。ここは、「次世代の」という言葉に「未来に向かって」という時間軸が加わります。第1の柱は、いの一番に防災意識を高めようということから、この柱が成り立っていますけども、4番目は、先も見通して人材を育てていきたいという意味です。その意を含んで、皆さんのアイデアも若い人材を育てるということを明確に打ち出していただけました。皆さんのアイデアを全部実現していきたいですね。「ちびっ子防災士」というアイデアがありますが、このネーミングでぜひやってほしいなと思います。「ちびっ子防災士」のアイデアを書いてくださった方、何か発言を加えていただけますか。いかがでしょう。

二橋委員

私がちびっ子防災士、書きました。

高齢者や認知症の方に対する援助者として結構あるんです。ですので、防災士もそんな人があったらいいかなということ。ただ、授業時間も結構限られているんで、小学校やったら4年生ぐらいが一番いいと言われているんだけど、そこに偏っていくところもあって、なかなか手を挙げづらいところもあるんです。ただ、命を守る教育で非常に大事なことなので、それをうまくつなげていけたら、学校のカリキュラムの中に入っていけるのではないかと思います。

近藤部会長

阪神淡路大震災が起きた後に、「防災福祉コミュニティ」と呼ぶ自主防災組織をつくったときに、「ジュニア消防隊」なるものをつくった学校があちこちありまして、やはり、学校のクラブ活動のような形で消火訓練したりとか、運動会のメニューでバケツリレーしたりとか、そういうやり方をやっていらっしやいま

す、今でも。四半世紀を超えて、そういうふうにつながっている場所もありますので、ちびっ子防災士、独自のちびっ子防災リーダーを、それこそ認証してあげるといいのかなと思います。

二橋委員

そうですね。また、講師として来られる方は、子どもの前でなら、非常に意欲を持って話してくれ、そういうお仲間ができていって、子どもにも教えるし、自分自身も高まるというような、そんな形がいいのではないかと。私は、高齢者の認知症サポーターのオレンジリングの認証をもらったかな。そういうのもあったら、よりいいかなと。

近藤部会長

このアイデアもすごくいいなと思います。何かコメントを加えたい方、いかがでしょうか。

ちびっ子防災リーダーを認証していくことについて、野崎さん、いかがですか。

野崎委員

子どもたちの授業やいろんな学習、小学校6年間の課程の中で、人権研修や防災授業をしないといけないというようなカリキュラム自体はあるのでしょうか。

二橋委員

ありますね。防災について、ある程度カリキュラムはあるんですけども、教科書がありません。テキストがあればやりやすいかなと思います。

野崎委員

小学校、中学校が義務教育なのでそこが枠組みになるかもしれませんが、小学校のときにも防災授業があって、中学でもあって、高校でもあるというような、そういう教育の方向性とか、教育委員会とも相談せなあかんけれども、南区だけじゃなくて、堺市でそういうのを進めていくというのも長期的に見て難しいとかあるんですかね。

大橋委員

避難訓練は3種類あるんですよ。地震と火事、それと、不審者と。その三つの時間というのは多分、大体45分ぐらいを想定しているんです。避難が始まってから教室へ戻ってくるまでというのは、15分ぐらいで想定しているのでしょうか。

二橋委員

いや、大体、授業時間の半分ぐらいです。

大橋委員

半分ぐらいだけなんですよね。

二橋委員

はい。

大橋委員

授業の残り半分を、例えば、4年生、5年生、6年生に向けて、簡単なカリキュラムをつくれるように、堺市の教育委員会にお願いするとか。15分ぐらい

で、スライドで見るだけでも違うやろうし。堺市の危機管理室がつくっているような地震の資料を子ども向けにつくり換えてもらって、15分程度で見ればいい。そういう形やったら時間的にも可能性があり、現実味が出てくるかなと思うんです。1からカリキュラムをつくるのは難しいので。それこそ、危機管理室はプロです、堺市の危機管理のプロなんで、やれるのかなと。子ども向けの資料をつくれるかなと思います。

自治推進課長

ご参考までになんですけども、堺市のほうで今、出前講座といった講座もございまして、いろんな各種団体からご依頼いただきましたら、それぞれの区の防災担当の職員が訪問させていただいて、いろんな取組の紹介、ご希望を聞いて、どういった内容を実施するかということについては、相談しながら決めております。制度がございますので、ご利用いただけるかなと、お話を聞いて思ったところです。

大橋委員

実は、堺市の危機管理室を通して、阪神淡路大震災を学生時代に経験した方に来ていただいたことがあって、高校生のときに体験した話をしてもらったんです。その方にお話を聞いたら、やっぱり、子どもたちはすごく具体的に分かって、出前授業は本当に子どもたちにとってよかったなっていうのがあります。私たちもその話はとてもよかったので、そこから、何かつくってもらって、何かできればとてもいいかなと思っています。

いつも利用させてもらっています。ありがとうございます。

近藤部会長

「未来の人材」を学校だけに預けて任せればいいということじゃなく、地域と共にということが、この場でも共有できたと思います。なので、ちびっ子防災リーダー、例えば、ジュニアリーダーになった中学生が小学生に教えに行くとか、そういう交流もあっていいと思うし、やはり、地域の人材、自主防災組織のリーダーの方が、小学校で防災の授業をする。これはいろんな自治体でもう取り組まれています。そのほうが自主防災組織の人が活躍の場ができて、頑張るぞってなりますもんね。今後、具体的なアイデアがいっぱい出てくると思うので、どんどん実現していつてもらえるといいかなと思います。

じゃあ、最後の5番目の柱も行っておきましょうか。

ここも、皆さんに網羅していただいています。大きく分けると二つありまして、一つはSNSやインターネットなどを使ったデジタル、ICTについてです。それから、アナログに集まる場が欲しいとか、「情報交換会しましょう。」など、拠点が欲しいということです。その2点をまず、しっかり書いておきたいと思います。

デジタルの部分は、スマートシティということで、堺市もいろんなことを取り組んでいるので、防災の情報を共有するアプリとかは、どなたか得意な方が来年すぐつくってくれそうな予感もしますけれども。それだけでは、世代のギャップが生まれますので、ご年配の方でも情報を手に取れるようなアナログなもの、ここでは紙によるものと書いてくれていますけども、どっちも大事だと思います。

防災のイベントなど、物理的な場、情報が共有できる場があれば、世代を超えて情報を交換してもらい、意見やアイデアを共有してもらえるといいかなと思います。

どなたか、これに関して補足などいかがでしょうか。

岸本委員

確かに情報共有というのは、必要なアイテムかなと思うんですけど、やっぱり年代によって使える方、使えない方や、障害のある方、目の見えない方、声を出せない方とか、いろんな方がおられます。全部をまとめるのは非常に難しいかなと思います。情報の共有の仕方もしっかり考えるべきことであると思います。手話をする人が、それぞれの避難所にいるのかとか。手話ができる人を育成するなどそういうことが、これからも必要になるかなと思います。

近藤部会長

そうですね。要配慮者の方にフィットさせた情報の共有の仕方というのは、まだまだ工夫が必要な部分もありますので、この2番目の部分との今度はリンクになりますけれども、誰一人取りこぼさないようにするために、ふだんから情報共有の在り方を考えて、工夫してもらおう。それを災害時に生かしてもらおうということが必要になると思います。ありがとうございます。

ネットを通じた情報のプラットフォームを、まずつくっていただけるといいと思います。そこにアクセスすれば、イベントがあるんだとか、こんなアイデアが生まれたんだとか、みみちゃんが来てくれるんだな、とかが分かるページをつくれるといいですね。特別な予算措置が必要になる話ですけども、それから平場でアナログに情報を交換できる場をつくっていく。それから、アナログの媒体ですね。

皆さんからいただいたアイデアを一覧にしたつもりです。抜け、漏れなどないでしょうか。

第1の柱は、意識を高めるために広報やキャンペーンをしていくことに転化してみました。

2番目は防災福祉、インクルーシブ防災を具現化するために、人材、それから、場所、それから、交流、関係性をつなげていくという観点です。

3つ目は、既存の枠組みを超えた取組にしていきたいということで、小学校区域を越えるという目線や自治会を越える、自治会を強化していくような作戦です。さらに、多様な主体を巻き込んでいくということを加えました。

4番目は未来に対して、次世代の人材を育成していくということを柱に掲げています。

5番目は情報の共有ということでデジタルにもアナログにも、そして、要配慮者にも届くように、情報を共有できるようにしていこうということを書き込みました。

いかがでしょう。皆さん、何かこの点はとか、不足がないかしらとか、何か気づいた点とか。

福井委員

先ほど、先生が取りまとめた第1の柱の中の「南区の防災拠点となる展示スペースを充実する。」を5番の柱に移動させると言っていたかと思うんですね。それは入れられそうなんではないでしょうか。

近藤部会長

入れましょう。ありがとうございます。

金子委員

新しいことではないんですけども、コロナ禍の前は、うちの校区では、小学校5年生に年に1回、認知症のサポーター養成講座をしていたので、地域で自治会や民生委員が養成講座を受けておいて、また、専門家にも来ていただいて、小学校で1時間ほど、年に1回やっていました。ですので、このちびっ子防災士の養成というのは、すごくいいなと思いました。多分、子どもたちも、認証などいた

だけると、とても張り切ってるんじゃないかなと思いました。

最後のところ、高齢者にとってICTとかいうのは、聞いただけで難しいので、やっぱり、アナログによる、紙によるというのは、私も書かせていただきました。そのところもやっぱり高齢者にとっては必要なことかなと思います。

近藤部会長

このちびっ子防災士について、小学生でも認証して、中学生で中級編、高校生で上級編とか、流れをつくってあげるとさらにいいのかもしれないかなと思います。ありがとうございます。

では、これが今日の中心的な作業になりますので、特にご異議なければ、あと、南区と私に一任いただいて、もうちょっとこなれた日本語にするとか、ちょっと踏み込み過ぎな部分はマイルドにするとか、調整はしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

たくさん意見をいただいた割にはちょっとコンパクトにすると、こういう形になりますが、あとは施策に反映していただくときに、また、これをヒントに広げていただければいいのかなと思います。

3. その他

近藤部会長

では、ちょうど今、8時になってしまったのですが、最後の部会なので、どうでしょう。御縁があって、この部会を一緒にやってきましたので、それぞれちょっと感想を一言ずつ言って結びとしたいと思います。

この部会をやってきて、こんなふう感じたとか、もっと時間があればこんなことも言ったんだけどね、でもいいです。あと最近、災害、台風もいっぱい来ていますので、防災に関する思いとかでも構いません。皆さんから最後にお声をいただけたらいいかなと思います。

大橋さんからお願いしてもいいですか。

大橋委員

この部会、参加させていただいて、宿題とかも出されて、いろいろ勉強する機会があり、深く考えることができたかなと思いました。それこそ、先日2日の大雨のときに、それぞれの校区で、その地域特有の被害、新聞に載るような大きな被害じゃなくても、小さな被害がそれぞれやっぱりあったと思うんです。それに合ったような校区それぞれの取組が、これから必要なのかなと思いました。やっぱり、その辺は情報共有しながら、うちの校区でも水の被害は出たので、新聞には載りませんが。そういうのがあったので、やっぱり、やっていかなあかんかなと思いました。

近藤部会長

金子委員、いかがだったでしょうか。

金子委員

この部会でいろいろ勉強させていただいて、今後も校区の、校区になってしまいますけども、皆さんと啓発でいろいろやっていけたらと思うんです。この頃ちょっと尋常じゃない災害が起こってくるので、本当にどういうふうに対応していたらいいのかなっていうのを思いながら、勉強させていただきました。

近藤部会長

岸本委員、お願いします。

岸本委員

この部会で皆さん方と討論できたことを、本当にうれしく思います。これから、自治会として、連合としても役立てたいと思います。私の勝手な解釈なんですけど、この五つの柱、一つ目のオール南区があつて、それが全部中に入るよという解釈をしているんですけど、その辺、部会長、どうですか。

近藤部会長

そうですね。この柱同士は全部結びついているので、1番の柱は、2や3や4や5をしっかり支えるっていう意味では、つながっています。入り込んでいますね。

岸本委員

解釈的にそれでいいかどうか、思いましたけども、そういうふうに使っていきたいと思います。はっきり申し上げまして、3つ目の中学校区単位、これは非常に難しいと思います。自治会としても、やはり、学校の協力なくしてもできませんし、例えば、校区の中で3つとか4つとかある自治会、これは横のつながりも構築しなければいけないということで、これはちょっと短期的には無理なんかなというふうに思います。勉強になりました。

近藤部会長

福井委員、お願いします。

福井委員

私が公募をさせていただいた一つの理由は、自分の子どもが障害を持っていて、その子が最後、南区で一人で生きていくためには、今後やっぱり防災力が上がっていくことが、生きていく一つのすべになるのかなっていうのが一つ目の理由だったんです。皆さんの声を聞くと、ほかの方が今日、視覚障害の方のお話もしてくださいました。私が言う前に、多くの方がやっぱり援助が必要と言われる人、自分自身も高齢になってきたらもちろんいろんな援助が要するという人も含めて、そういうことにちゃんと視点を置いてお話くださる方がこんなにたくさんいるんだなとすごく心強く思いました。

部会長の近藤先生は、やっぱり、経験値がすごく多くて、いろんな地域の好事例のお話を取り入れながら、堺市でどのようにするか、南区でどのようにするかを考えてほしいって投げかけをこの場で何度もしていただいたことが、非常に前に向いていく部会になったんじゃないかなと思いました。

近藤部会長

では、二橋委員、お願いします。

二橋委員

本当に、防災に関する認識とか考えが深まりましたし、いろんな委員の皆様のご意見聞く中で、本当に、いろいろ視野が広がったように思います。

近藤部会長

野崎委員、お願いします。

野崎委員

僕はこのような、ふだんお会いできないような方と、同じ会議、一つのテーマに沿って意見を交換したり、様々な意見を聞けたりしたことがすごく貴重な体験だったと思います。南区の、こういう政策会議っていうやり方は、すごくすばら

しい。今後もこういうことを続けていってもらって、まちづくりしていってほしいなとすごく思いました。自分自身、防災と向き合うこともすごくできましたし、今後、気候変動等で今までにない大きな災害っていうのは、来る可能性がやっぱりすごく高いと思うので、やっぱり、日頃からしっかりと準備はしていけないといけないなって改めて思いました。

近藤部会長

最後になってしまいましたが、正木委員、お願いします。

正木委員

大学生の私には、まだ未熟で、もっとうまく話せたこともたくさんあったと思うんですけど、皆さん、ちゃんと聞いてくださって、それを拾ってくださったのが、すごくうれしかったです。来年から保育士なので、保育士として子どもとうまく関わりながら、防災についても、もっと広めていけたらいいなと思います。

近藤部会長

保育士さん。ぜひ、頑張ってください。

では、これで本日の部会のディスカッション、結びとさせていただきます。皆さん、毎回、長時間ありがとうございました。今日もありがとうございました。

自治推進課長

私から最後一言なんですけれども、これまでの会議で、皆様にいただいたご意見、また、本日、ご意見いただいたアイデアカタログを踏まえまして、今後、防災に関する事業化を構想しまして、予算要求を進めてまいりたいと考えております。本当に、皆様いろいろ会議にご協力、様々な貴重なご意見等、ありがとうございました。

4. 閉会

区政企画室長

皆様、本当に、ありがとうございました。

今後の予定としまして、2点ご連絡させていただきます。

10月31日、月曜日に堺市南区政策会議構成員と堺市南区選出市議会議員との意見交換会を開催する予定としております。各部会からは、部会長と、そして、職務代理の方に部会を代表するという形で、ご出席いただく予定としております。

また、11月14日、月曜日に第2回全体会を開催する予定としております。南区役所会議室にて、19時から開催する予定としております。皆様、ご予定のほど、どうぞよろしくお願いたします。

これもちまして、堺市南区政策会議、第5回安全安心創出・未来共創推進部会を終了いたします。

本当に、皆様、ありがとうございました。

閉会（午後8時11分）